

シルバー さんむ

第 4 号 平成25年5月

公益社団法人
山武市シルバー人材センター
〒 289-1514 山武市松尾町松尾47-3
☎ 0479-86-6616
FAX 0479-80-8280
メール sammu@sjc.ne.jp



編集後記

今年の冬は、各地に大雪を降らせ厳しい冬でした。彼岸には東京、千葉に平年より一週間から十日早い桜の開花宣言もあり、満開となる暖かい季節が訪れました。シルバー人材センターの作業も野外就業が多くなり、会員の皆さんの就業活動が本格的にはじまります。会員同士仲良く、若者に比べれば多少体力が落ちても、人生前向き「いま・幸せ」と、感謝の気持ちを忘れず、頑張りましょう。

広報委員会では、会員の皆様からの原稿を募集しています。ふるって投稿ください。お待ちしております。

広報委員 齊藤 武久

シルバー会員の匠の技「垣根作り」

シルバー人材センターで「出来る仕事」には、大工・植木の剪定・草刈・車の運転・・・など多種多様であり、ここに紹介している画像は「垣根作り」です。シルバー会員は日本の伝統的な匠の技と比較しても遜色ないレベルの技術をマスターしており、ご覧のように“美しく・がっしり”と仕上げます。

業務係(コーディネーター)の仕事紹介

業務係 塩崎 照夫

センターには、業務係という部署があり、現在四名が交替で勤務しています。昨年の四月より草刈班や植木剪定班などの職群班を設置し組織化しました。これにより、人件費、設備費を削減でき、少数精鋭で活動することができるようになりました。業務係はご家庭などから仕事を受注し、健康で働く意欲がある会員が「生きがいづくり」として、その仕事が高齢者にふさわしいかどうかを検討いたします。もちろん安全な就業が条件で、就業希望に該当する会員を検索し仕事を提供しています。

作業前には必要に応じ、会員同行で現地の下見や見積もりを行い、高所作業や傾斜地等危険な箇所はないか、作業環境の点検及び確認も行います。会員の体調や熱中症等日常の健康管理にも気を配り、就業先のパトロールを適宜実施しています。また、仕事に関わるクレーム処理にも迅速に対処しています。受注した仕事一回で終わるか、継続発展(リピートオーダー)に結びつくかは、作業の出来栄を発注者の皆さんが喜んでるかどうにかかります。

今後は、会員による共働互助を基本とする職群班の協力を得て、能力開発の場である技能研修会で技量を磨き、発注者の皆さんには「満足感」を提供し、会員には「充実感」を味わってもらえるよう、風通しの良い太いパイプ役の業務係に徹したいと思えます。

女性部会の活動紹介

女性部会委員長 並木ノブ

女性部会が発足して二年目を迎えます。日頃、会員の皆さんには何かとご協力を頂き有難うございます。

女性部会活動として去る九月には、各地区で茶話会を致しました。(広報三号参照)

その時は皆さん日頃の出来事などを楽しく談笑されていました。



女性部会の委員のみなさん

また、一月に開催された芸能発表会に大勢の方が参加され、多種多様の芸を披露してくれました。観客の皆さんも大勢来て頂きお茶に食事にと楽しい一日を過ごすことが出来、良い親睦の場となりました。

しかも読み方の音訓がまんべんなくあるところが面白い。音訓別に市町村名をあげてみよう。

まず音の「ハチ」と読む市町村は、東京都の八王子(ハチオウジ)市、青森県の八戸(ハチノヘ)市、秋田県の八森(ハチモリ)町、同県の八郎潟(はちろうがた)町がある。

同じく音の「ハツ」と読む町村に鳥取県の八東(ハットウ)町、山梨県の八田(ハッタ)村がある。

訓では、「や」と読む市町村が一番多い。千葉県の八千代(ヤチヨ)市、福岡県の八女(ヤメ)市、大阪府の八尾(ヤオ)市、茨城県の八郷(ヤサト)町、島根県の八束(ヤツカ)町、同県の八束(ヤツカ)村、長野県の八坂(ヤサカ)村、広島県と兵庫県の八千代(ヤチヨ)町がある。

同じく訓の「やつ」と読む市町村は熊本県の八代(ヤツシロ)市、富山県の八尾(ヤツオ)市、山梨県の八代(ヤツシロ)町がある。

さらに同じく訓の「よう」と読む市町村には八日市(ヨウカイチ)市、兵庫県の八鹿(ヨウカ)町がある。

「八」の付く市町村名に関して合計五通りの読み方がある。

以上の中には同字同称もあるが、気をつけなければならぬのは八尾「ヤオ」と「ヤツオ」の同字異称である。また「八田」は「ハッタ」と読む例が多いが、「ハタ」「ハンダ」と読む場合がある。さらに「八坂」も「ヤサカ」と読む例が多いが「ハッサカ」と読む場合がある。

いずれにせよ、音の「ハチ・ハツ」訓の「や・やつ・よう」を使い分けるには、以上あげた市町村名がよいヒントになるはずである。

今年度は五月に日帰り旅行を、十一月には料理講習会を計画しています。これからも会員の皆さんが生きがいの会となります様良い案がありましたら、事務局まで申し出て下さい。宜しく願います。

新規事業開拓委員会を充足して

委員長 津久井 知世

平成二四年度途中に、今後の事業実績への憂いを懸念して、この委員会を立ち上げました。

残念ながら、事業実績は年々減少傾向にあります。これは、景気の低迷による事業所の撤退や規模縮小によるものが大きな原因となっており、シルバーとして地域で何ができるかを改めて見直し、就業の場を拡げるために何ができるかを検討審議していく委員会になります。

五名の理事と三名の職員で構成し、昨年度は、「発注者アンケート」を一〇〇件の発注者に行いました。ほとんどのお客様はシルバの仕事に満足をしていただけでしたが、一部については会員の加齢等を心配し後継者の育成を望まれたりしていることがわかりました。その為、事務局として積極的にワーキングシエを進めています。その他、会員増強の一つとして新聞折り込みチラシの配布等を実施しました。

今年度は、さらに就業開拓員を設置し、事業所や個人宅の訪問を行い、シルバの知名度を上げていくよう図ります。年度内に、リーフレットの作成も計画し、会員の皆様にも

九(ク・キュウ・ここの・ここのつ)

九の「く」は「苦」に通じるとして、地名では好まれていないせい、あまり用いられない。

九番町と書く場合「キュウバンチョウ」と「クバンチョウ」が、ほぼ半々である。それでも岩手県の九戸(クノヘ)郡や和歌山県の九度山(クドヤマ)町のように地名では「キュウ」より「ク」と読む場合が多い。訓の「ここの」は、大分県の九重(ここのえ)町のように「九重」と書く場合に限られている。もっとも中には「くじゅう」と読む場合もある。

九には「つづら」と読む特殊なケースがある。九折(ツヅラオリ)、九曲(ツヅラクマ)、九尾(ツヅラオ)などである。

九は十までの中で一番多く続く数である。数の多い数字を当てて、いくつにも折れ曲がっている事を表す文字として用いられたものである。同じ意味で「十九」と書いて「つづら」、「九十九」と書いて「つづら」と読むケースもある。

十九は二十から一を引き、九十九は百から一を引いて、はんばな数の中で最大である事から、数の多さを印象づけるために用いられた文字であり読み方である。九石と書いて「サザラシ」と読む地名がある。「さざれいし(細かい石の意)」の事で、これも数の多い事を表すものである。

以上、一から九までの一桁数字を用いた地名のそれぞれの読み方の違いを述べてきた。全く読めないと言う事はないが、そう簡単に読み分けの出来ない事をおわかり頂けたであろうか。

新田 博

文芸

短歌

土屋敦保

姉様の手際の良きの寿し作り

太巻き寿しに椿花咲く

霜深かき土手に咲きたる仏の座

赤紫の群まりて咲く

蒼社川に白き月浮く冬の朝

遍路の道をひたすらに歩む

小寒の寒さ日ごとにつのりるて

手袋嵌める指先痛し

四段に列れて落ちる袋田の

水かさ多くひびく滝音

地名の雑学(続き)

八(ハチ・ハツ・や・やつ・やつつ・よう)

数字地名で「八」の付く地名が一番多い。末広がりで縁起が良いと好まれたのか、また、古くは「や」は数の多いことを表したのかも知れない。その代表格が「八幡」地名である。これを別としても市町村名で「八」の付く地名が二〇近くある。

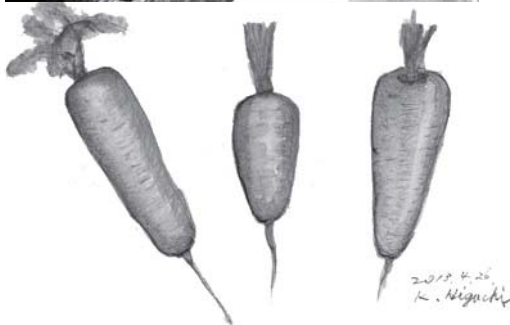
発注者の声②

農家 島田 清

私の家では、山武町シルバー人材センターが発足してから、ずっとお世話になってます。内容は、大まかに言ってピーマンや人参（果菜・根菜・葉物・種物）などです。発注者の必要に応じての出荷は大変ですが、今まで頑張ってきました。シルバーさんに来てもらうまでは、色々な国の外国人の人に来てもらっていましたが、意思疎通も難しく、また、人件費の面では税務署からも指導されることもありました。しかし、シルバーさんを利用してからはそういう心配は無くなり、安心していきます。家族に病人が出たときも、手助けしてもらいました。

これからの農村は、高齢化と後継者不足が問題となって来ることでしょうから、シルバーさんの協力がますます必要になって来るのではないのでしょうか。

今後ともよろしくお願ひします。



山武歴史探訪

【東金飛行場】

戸村 茂昭

私は昭和十五年生まれですが、戦争のことと言えば、目の前の空（多分、富田幸谷上空）で空中戦があったような無かったような・・・と言ううろ覚えの記憶。また、お隣が鍛冶屋だったので、その親父さんがカラの焼夷弾をバーナーで焼き切っているのを見れば見た記憶がある程度です。

一方、子供時代から「武射田飛行場」という言葉は周りの大人たちから聞かされてきました。しかし、実際のところその飛行場の場所が何処なのか皆目分らないままでした。ところが、先ごろ、パソコンで山武郡の航空写真を眺めていましたら、山武市白幡地区の西の方に不思議なものが目にとまったのです。

なんだろう？と思い、車を飛ばして行ってみて驚きました。それは飛行機を格納する堰体壕の残骸だったのです。その後、インターネットの情報をいろいろ調べてみましたので、その要旨をここに掲載させていただきます。

この飛行場は、アメリカ軍の九十九里浜上陸を想定し、本土防衛の九十九里浜迎撃作戦の一環として九十九里浜に近い豊成村に昭和十九年春、農地、水田、山林を接収して飛行場として緊急造成し、同年秋に完成させたという事です。同年十二月には陸軍飛行隊が移駐してきて本土決戦に備えて配備されたそうです。

昭和廿年早春の頃は、二日に一度か、三日に一度、熾烈な空襲があり、空中戦も行われたとのことでした。

なお、東金市土農田にある警察学校の近くには、この飛行場の存在を後世に伝えるための記念碑が作られています。その記念碑には、以下のように書かれていました。

本土防衛の跡を偲び、
平和を祈るふるさとの碑

豊成飛行場は史上、東金飛行場といわれて、昭和十九年三月大東亜戦争末期、本土決戦の戦略によって急造された。

青麦を刈り捨て、住家を移転し、墓地を掘り返し昼夜兼行、近隣住民を総動員して工を急いだ。未完成のまま十九年末には飛行第28戦隊が駐留してきた。総面積一七〇ヘクタール、その84%は肥沃な農地であった。以来戦況は日増し悪化し、空襲は連日連夜に亘り、村役場の移転、小学校は取り壊して寺院神社に分散授業。戦火は鳴浜小学校や民家を焼き、遂に住民や兵員の犠牲者を出すに至った。かくて一回の戦果朗報を聞くことなく一歳にも満たずして二十年八月十五日終戦解体することになった。

今わが豊成飛行場の歴史も半世紀の歳月の底に沈んで語る人もなくなつたが、この跡地に残された本土防衛の志想と平和を希求する愛郷の真情は魂魄となつて強く生き続けていると思う。

われら思いをここに致して、地域一体となつて後世のために「平和をよぶふるさとの碑」を建設して遺すことに相成つた。永遠に平和と繁盛の花咲き栄え給えと祈つてやまない

平成6年3月吉日

ご協力いただきながら広報宣伝活動を行う予定です。

発注者の方へは、会員の皆さんの誠実な就業ぶり、皆さんの知識と経験を培った仕事の出来栄えを実感していただき、「シルバーの安心感」を味わっていただく事で、次の就業へつなげることが基本です。その自信を持つて、委員会は活動を展開してまいります。一つでも多くの就業の場の確保の為、委員会は今年度も活動を続けていきます。

職群班班長会議 開催

四月十二日に平成二五年度職群班班長会議が開催され、星久木会長から班長へ委嘱状が交付されました。



職群班の構成としては、

- ・ 植木班 5班
- （成東地区 4班、山武地区 1班）
- ・ 草刈班 6班
- （成東地区 3班、山武地区 2班、松尾地区 1班）
- ・ 草取班 1班（蓮沼地区）
- ・ 軽作業班 9班
- （パトロール班、駅前駐輪場管理班など）

また、班長の活動内容は次のとおりです。
・ 班員と発注者の連絡調整
・ 作業の手順や下見、見積調整
・ 班員の技術の向上、後継者の育成
・ 安全就業の徹底
・ 予定表の作成（軽作業班） など。
会議はそれぞれの班長から意見や活動内容が報告され、各班が抱えた問題点やセンターへの要望などがありました。業務係で今後検討していきます。

入会説明会

平成二四年度より、新規入会希望者向けの説明会を、毎月第二木曜日の午前九時三〇分より松尾ふれあい館2階で開催しています。

内容は、会員ガイドを基に事務局長よりセンターの主旨や就業についての仕組みを約一時間行います。共働・共助の理解への為、業務係主任より職群班の説明もします。

その後、賛同していただいた参加者に申込書等に記入してもらい、最後に個別で面談を行います。その時は、業務係も同席しますので、入会希望者の希望内容や前職・技能等を詳しく聞くことができるので、比較的早い時期に就業に結びつくことができます。

昨年度は、新聞への折込みチラシや、会員の皆様にご協力いただいたチラシの配布の影響で、年間で八五名の方が参加をしてくださいました。会員知人加入で申込みをしていただけの方は、参加時にシルバーの内容をだいたいわかっていただいていますので、事務局としても非常にありがたいです。

今後、近隣や友人の方へのお声掛けをお願いいたします。

新たに入会してくる方は、当初不安心を感じられていく方が多いと思います。会員の皆さんが新規入会者を温かく迎え指導をしていただくことで、ますますシルバーの質向上が進み発展につながることだと思えます。

皆さんが就業の喜びを感じ、地域に貢献できる場を作れるように、今後も事務局は会員の皆様と共に頑張ってまいりますので、よろしくお願ひいたします。



芸達者ぞろいの芸能発表会

広報委員 竹内 光興

一月二十六日午前十時から蓮沼スポーツラザのしおさい館に於いて、芸能発表会が開催されました。

初めての行事で、どんな会になるのか楽しみに、広報委員の私はビデオを片手に参加しました。会場は和室で舞台との距離は近く、大正琴のきれいな音色から会は始まり、カラオケで熱唱の芹川さん、安来節の野口さん、着物の衣装に着替えて舞踊を披露した土屋さんと青沼さん、ドレス姿が素敵なお松林さん。みなさん芸達者で驚きでした。

テーブルの上には、女性部会の方々の手作りのお赤飯や漬物など、おいしい食事とおしやべりに花が咲き笑い声が絶えません。お昼の時間は、林さんの手品で、まさかまさか新聞紙に水をいれたが消えてしまった。楽しい雰囲気のおかげか、カラオケの飛び入り参加の声も上がり、時間が足りないようでした。演目の締めくくりは、会場の全員でフラダンスを踊って、抽選会では賞品までもらってしまいました。発表された方も、見ていた方もとても楽しい時間でした。今年度も開催されるそうですので、ぜひ参加してみてくださいいかがでしょうか。(裏表紙参照)



会員就業紹介

☆障子や襖・網戸の張替え☆

成東地区の谷口恵次郎さんは、シルバーに入会してから技術を習得し、障子や襖・網戸の張替えの仕事をお願いしています。

襖は、山武市全域を担当しています。仕事の依頼を谷口さんに電話で伝えると、自分で発注者宅の場所を地図で調べ(わからないときは図書館で調べること)、すぐに発注者へ電話をし、枚数が少ない場合は、その日のうちに張替えを行い、品物を納めることもあるそうです。お客様を待たせないように、すぐに行動をとることが再注文につながる事だと心掛けています。

実際に作業するところを取材に行きました。自宅の隣に、家を建て替えたときの材木で作業所を建て、効率よく作業を行えるよう、道具が所定の位置に置いてあり、無駄のない動きで、あつという間に障子を張り替えています。障子は糊をつけすぎないことがきれいに貼るコツとのこと。新しい紙が貼られた障子は、パツと明るくなりました。襖は絵柄を合わせ、しわにならないように貼ります。また、谷口さんは長年使用して色が変わった建具をきれいにする「アク洗い」や、壊れた棧を修理したりと、お客様の要望に応え仕事をしています。



発注者の声①

「早船里山」の成り立ちと

シルバー人材センターの支援
早船里山の会代表 實川 征吾

私たち「里山の会」は、「水と緑ときれいな空気、そして心地よい空間」を目指し、生まれ育った里山を、かつての自然の姿に取り戻そうと活動しています。

私たちが、里山に取り組んだ動機は、里山に人手が入らず、あまりにも荒廃がひどく篠竹やセイダカアワダチソウが繁茂してしまつた状況に、こんな里山で良いのか。これは早船地域としても大きな損失ではないか。この荒廃した土地の活性化が図れないだろうかとの思いで立ち上がりました。

里山の活動は、平成十七年度から始まり、多くの方々の支援と協力をいただきながら八年が経過したところです。

早船里山は、総面積約三ヘクタールに、桜・アジサイ各五百本、ナラ・クヌギ・モミジ及び杉等千二百本を植樹しました。現在では、会員三六名により、この植樹した後の管理が主な活動となっています。

また、早船里山は、「教育の森」として、県から認定され、昔からこの地に棲んでいる動物や植物が四季折々見られ心が癒される里山になるよう努めています。現在は動植物も復元されてきたように思われます。

今年の里山も厳しい寒さに耐えた桜、梅、桃、椿等が同時に咲き、桜を鑑賞する人や散

策をする方々に楽しんでいただきました。そして、年々里山を訪れてくれる方々も徐々に増え喜ばしく思っています。

これから里山では、「アジサイ祭り」や「里山コンサート」等のイベントを行う予定をしています。このイベントを通し皆さんと交流を深めたいと思っていますので、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

さて、現在の早船里山がきれいに整備されたのは、個人、法人等多くの皆様からの支援によるもので、その中に、シルバー人材センターの皆様からの支援がありました。

シルバー人材センターとの関わりは、早船里山が、何十年と人手が入らず荒れ放題となっていたこの地を何とか昔の里山の姿に戻したいと、シルバー人材センターの初代会長の小島氏に趣旨を説明し協力をお願いしたことが始まりですが、小島氏からは、二つ返事で、良い里山を創りましょうと賛同して戴き、雑木の伐採や下草刈り、ゴミ拾い等を進んで行っていただきました。

その後は、毎年のように安心して仕事を依頼するようになりましたが、会員の皆様方は、真面目に作業に取りくんでいただき、里山の会として大変助けられ感謝しています。

シルバー人材センターの皆様は、永年培われた技術を身に付けている方々が大勢おり、その技術を地域社会に貢献して下さっていることは素晴らしいことです。「人に喜んでもらえることが自分の喜びとする生きざま」これからも続けて下さるようお願いいたします。

困った人がいたら手を差し伸べる優しい思いやりや、自らの心に余裕をもった生き方が大切であると思います。

障子の張替えの様子



アク抜き

ビフォア(左) アフター(右)



最後にシルバー人材センターの発展と会員皆様が健康で活躍されることを願っています。

追伸

早船里山の会では、会員を募集しております。連絡先は次のとおりです。

山武市早船ト二〇六一五

實川 征吾

☎0475-8215147

